

2020年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 地域科学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>問1 本設問は、地域社会学分野から2問、社会生態学分野から2問、人文地理学分野から2問を出題しており、各分野の基礎概念を用いて専門的な議論を行う能力や、専門的な知識を現実問題に応用する能力を見る。</p> <p>問2 本設問は、社会生態学、地域社会学、人文地理学、地誌学などに関する基礎的な専門用語の理解度を確かめ、さらに指定された文字数で専門的な見地から明確に記述する能力を見る。</p>

2020年度
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 地域科学 全1枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 1枚、解答用紙 4枚を配付する。

問1は、小問1問につき解答用紙1枚を使用すること。問2は小問5問で解答用紙2枚を使用すること。なお、選択した小問の番号を解答用紙に記すこと。また、各問では図を用いて説明を行っても良い。

問1 下記の設問から2つ選択して解答せよ。

1. 北海道における第一次産業の特色を述べよ。
2. GISで洪水の被害を推定する場合、どのようなデータを用いて、どのような分析方法を用いるか具体的かつ詳細に説明せよ。また、その方法の長所と短所についても解説せよ。
3. ある主体が意識的・戦略的に、「問題」となる「状況の定義」を構成することを「フレーミング」と呼び、そうしたフレーミングのされ方やそれが及ぼす作用を分析することをフレーム分析という。フレーム分析の社会科学的な意義について論述せよ。
4. ある被災地における災害からの復興について、量的調査・質的調査双方の手法を使いながら研究したい。どのような調査計画が考えられるか。災害の性格や規模について自由に状況を設定したうえで、調査計画を具体的に論述せよ。
5. 外来種問題は、対象は生物であるが、その対策は社会的・政策的であることが求められる。その理由を説明し、外来種対策に必要なプロセスについて論述せよ。
6. 保全すべき生物が希少種であるとともに、農業被害等をもたらす害獣である場合、どのような保全対策を講じるべきか、論述せよ。

問2 次の用語から5つを選択し、専門的な見地からそれぞれ200字程度で説明せよ。

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1. ダークツーリズム | 10. 公共圏 (J. ハーバーマス) |
| 2. 理論計量革命 | 11. カメラトラップ法 |
| 3. 高規格堤防 | 12. 環境問題の「外部効果 (externalities)」 |
| 4. 豪雪地帯 | 13. 生物多様性ホットスポット |
| 5. やませ | 14. 遺伝的多様性 |
| 6. 被害構造論 | 15. 生物学的防除 (制御) |
| 7. 総有 | |
| 8. 文化資本 | |
| 9. 中間支援 | |